

地ふぶき跡の航空写真による冬期強風の面的調査

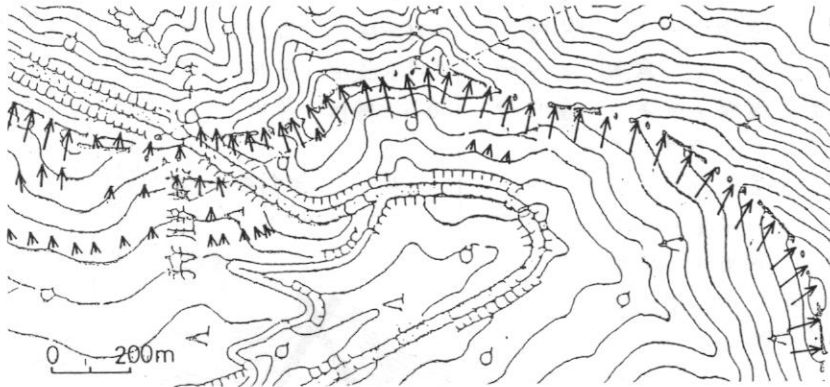
小林大二 (北大・低温研)

地ふぶきによる交通障害の軽減, 雪崩の1因となる雪庇生成, 住宅地域の防風, 防雪対策等のふぶきにかかわる諸問題に対処するためには, 地ふぶき及び吹きだまり分布を面的に詳細に調べる必要がある。高度計等測器を用いてのふぶきの面的調査には, 労力及び経費の面から限界があり, 航空写真の利用が有効となる。



I. 石狩低地帯のふぶき強度と風向分布

石狩河口から石狩川を經由して夕張川にぬける強風帯と, 岩見沢近辺における風系の変化が興味深い。



II. 狩勝峠近辺の稜線を越える気流の強度と方向

上空の一般風はNNW。稜線に直交する風向が雪庇の向きから読みとれる。鞍部では風が弱い。

III. 防雪林風下の弱風圏

新地の落葉樹防風林の防雪効果と航空写真から判読した。1見計で見えぬ5~10mの林防雪効果は約4~6割の吹雪を捕獲する。

